

2011年 5月 29日 (横浜市)

## ディーゼル排ガスによる喘息・肺がんを考える

～ 私がディーゼル排ガス研究から学んだこと ～

嵯 峨 井 勝 (つくば健康生活研究所・代表)  
(青森県立保健大学・名誉教授)  
(元国立環境研究所・総合研究官)

### 本日のお話の概要

- 1) ディーゼル排気微粒子 (DEP) にはどんな健康影響が知られているか、
- 2) 多くの環境問題を起こした背景に共通する問題点、
- 3) 1980-1990年代の「公害汚染は終わった論」と大気環境基準値の達成状況、
- 4) 都市大気汚染問題の経過と喘息の因果関係論の混迷、2つの考え方の衝突、
- 5) NO<sub>2</sub>と喘息発症率との間に高い相関、しかし、ネズミの実験ではNO<sub>2</sub>で喘息起こらず、
- 6) 一方、SPMと気管支喘息発症率との間に意味のある相関なし。NO<sub>2</sub>とSPM表裏一体、
- 7) 気管支の構造と気管支喘息の基本病態
- 8) ディーゼル排ガス吸入実験装置の作成、苦闘の2年間、
- 9) DEPの気管内投与実験とディーゼル排ガス (DE) の吸入実験の結果、
- 10) DEPによる気管支喘息の発症機序の解明、それを支持する疫学的、臨床的研究報告等、
- 11) 権威ある国内外の医学者との裁判法廷での因果関係論争、
- 12) 蓋然性の理論と反証としての日本自動車研究所の実験データ、減感作療法
- 13) 都市沿道大気汚染訴訟とその判決例、石原東京と知事の対応・行政の役割とは何か、
- 14) 国内のPM 2.5の最近の汚染状況の推移と各国のPM 2.5の環境基準値、
- 15) 環境問題に関する予防原則とそれに対する考え方の比較、
- 16) 環境問題のテーゼ：「人類の理知は、その理知による様々な活動がもたらす、すべての破壊的影響を予知しうるほど十分に進歩してはいない」、では、どうすべきなのか？

メモ：